

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274200373		
法人名	有限会社ホスピタルサービス		
事業所名	グループホーム清水三保の家 (2号館)		
所在地	静岡県静岡市清水区三保3503-74		
自己評価作成日	平成24年9月7日	評価結果市町村受理日	平成24年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [x.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2010\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=227](http://x.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosyoCd=227)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年9月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、毎日公園沿いに歩けば季節を感じ花や緑を見て楽しみ、御近所の方たちと会話をしたり挨拶を交わすことで地域の一人としての親しみを覚えさせてくれます。一緒に歩くことで体が鍛えられ、他の入居者様との自然な会話の中から親近感や団結力が生まれてくるのでしょうか。春と秋には皆さんで行く外出支援を行っていますが、ホームにいる時とは、違った笑顔が見られます。入居者様と職員との共に暮らす環境が、外出した時の助け合う関係に発展して、頼もしくうれしく感じられます。認知症があっても本人の人間性を大切にしながら共に暮らし「ぬくもり」や「穏やかさ」を維持継続できればと日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海岸近くの閑静な住宅地に事業所はあります。プランターの花々が風にそよいで出迎えてくれ、職員の日々の気働きが感じられます。運営推進会議を職員が担当制で運営したり、20名中10名の職員が介護福祉士の資格を有するなど、開設から9年を経て着実に職員を育ててきたことが窺えます。地道な努力は地域にも向けられています。利用者との散歩を通じて培ったつながりや清掃等自治会活動の積み上げは、「避難場所になって欲しい」と地域から申し込まれる形で本年実っています。朗らかでオープンな管理者の下、意欲の高い職員が「ゆったりとした生活」に向け尽力していることが一つひとつの取り組みから受けとめられる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は入居者が認知症があっても地域住民の一人として家庭を営み生活できるように関わり、穏やかな日常生活が維持できるように支援している。	新人職員には地域密着型の特徴とともに理念を説明するようにしています。「実際の家ではありませんが、あたたか家庭であるかのようにこの観点で支援しています」との管理者の言葉通り、利用者に自然に寄り添う職員の姿を視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に所属し、地域防災訓練や夏祭り等の地域行事に参加している。敬老会の景品受け渡しなど地域の自治会役員の方々に毎年お世話になっている。	3階建てであることから「津波の際にはぜひ避難場所に…」との声も挙がっていて、毎日の散歩から始まった近所づきあいが実りつつあります。中学生の福祉体験の受入も今年から始まりました。ボランティアの訪問も定着し、利用者にも好評です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では、ご家族や民生委員の方々等とともに認知症や成年後見制度等について勉強し、入居者への接し方やご家族の認知症への意識の改革に役立っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では自己評価や次年度の目標を発表し、さらなるステップアップに向けて意見交換の時間を設けている。	運営推進会議は年度計画を立てる中で担当職員を決めており、進行役と書記の2名で隔月運営しています。各職員が分担することで、参加者の顔ぶれや内容に彩があり、充実しています。また、包括職員にも毎回参加してもらい、地域連携に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の高齢介護課や生活支援課等を訪問する時は不明な点は質問して解決を図るように努めている。ホームとして地域に貢献できることは、やらせて頂きたい旨伝えている。	地域包括支援センターの声がけに応じ、小学校の福祉教育に参加し、事業所として貴重な体験となっています。包括ではホームページに空き室状況などをアップしていて、何かと事業所に役立つよう支援してくれています。また、市主催の研修会にも積極的に参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。身体拘束マニュアルを備えており職員は全てに目を通して、またAA課程において身体拘束について学んでおり未然の防止に努めている。	不穏な様子があると閉めることもあります。外部研修に参加するほか内部研修もあり、また朝礼で毎回繰り返し大切なことを読み上げて、意識の継続を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の講習会に毎年参加しており、講習や事例を聞くことで知識を深めている。 職員各人が虐待防止を意識し穏やかに接遇できるように意識を高めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は運営推進会議において、日常生活自立支援事業や成年後見について講師を招き学んでおり、家族より相談を受けた時は必要に応じて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時における契約の締結や解約、改定の際はご家族が納得のいくように文書を提示して説明し、了解を頂くように努めている。。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では意見交換する時間を設けている。また各階に意見箱を置き来所者が思ったままの感想や意見を入れていただるように配慮している	「三保だより」と名付けた運営推進会議の議事録縮小版を作成し、参加されなかった家族に届けています。ユニット毎のリーダーが面会や電話でのコミュニケーションを密にとり、家族意見が出やすい雰囲気づくりを心掛けています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員会議や各階の会議において意見や提案を吸い上げ、よりよい介護に変わっていくように努めている。	朗らかでオープンな管理者の下、ベテラン職員の意欲の高さに若い職員が刺激され、一つにまとまっていることが受けとめられました。管理者は傾聴を心掛けていて、迷う職員にはゴール(目標)は何かをあらためて考えてもらえるよう支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績を把握し評価している。就業規則により給与体系を整備し、給与規定に従って支給している。各種資格取得者には資格手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員が法人内外の研修を受ける機会を設けており参加している。職員は勤務年数や力量に応じて、講習を受講しており資格取得や技能の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作っており、松原包括区内の勉強会や実習に参加して、地域住民の方々に当グループホームの形態を理解して頂けるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者との面接において本人の要望や訴えに耳を傾け、安心した日常生活が送れるには、どうしたら良いかを考え信頼される関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談において入居者の日常生活を知り、ご家族の苦労や困難なことを伺いながら、要望を引き出し、入居者のより良い日常生活が確保できるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族のお話の中から要望を見極め、今求めている事を優先にしながら、穏やかな日常生活を送れるように支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は、日常生活を共に助け合い協力しながら過ごし、ご本人の気持ちに寄り添いながら楽しみも共有する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族と頻りに連携を取りながら、双方で利用者を助け励まし、気持ちの安定をはかれるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がホームに入居しても馴染みの人との関係が続き、会って会話を楽しむことができたり、出かけたりすることができる関係を継続させている。	毎朝の散歩では顔なじみの人もでき、清廉な空気とともに会話を楽しんでいます。全館通じて本を読むことを続けている利用者もいて、各フロアの本を時折交換しています。2号館の利用者の家族は定期的に図書館で本を借りて本人に届けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を持つ利用者が気持ちのずれや勘違いで対立することを防ぎ、利用者間の潤滑油になるよう努め、お互いが支えあって生活できる環境ができるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られた方は、職員が近くに行ったときは訪問して御家族にその後の様子を伺ったり連絡を受けたりして関係を継続し情報を共有している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの日常における行動や言葉や表情や表現から何を望んでいるかを推察し、本人の意向になるべくそえるように支援している。	介護相談員とは外出時の思い出を話したり、親しい関係を構築しつつあり、相談員を通じて本音を聞く場合もあります。管理者はじめ職員も聴くことが大切と考えていて、普段の会話の中から新たな意向把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活を把握し、ホームでの生活が自宅での生活とかけ離れず、我が家の延長線上にあるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活が穏やかに健康に過ごせるように、毎日のバイタルチェックや排泄チェックなどを記録把握し、心身の状態を日々観察しながら支援している。又、特変のある時は詳細記録に記入し情報を共有し現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を最優先として考え、家族や医療関係者等と最善の対応は何かを探り意見をいただきながら、状態の変化に応じた支援計画を立てている。	担当制を設けていますが、全員の意見を取り入れるようにしています。3ヶ月に1回モニタリングし、2号館、3号館では加齢によるADLの低下とともに自立度もまちまちのため、全員作業のクラフトなどをプランに取り入れています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日常での様子や変化は介護記録や介護詳細記録に記入され、職員の共通の情報源となっている。日々のバイタルの結果や食事の摂取状況などは職員の出社時に把握され、その日の日常生活の支援の注意事項に反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診などご家族が付添いが出来ない方には職員が付添い、薬の相談や今後の治療について相談している。又、買い物外出や外出など、本人のニーズに沿った日常生活を支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の訪問や外出を歓迎し、関係を継続することで気持ちが安定できるように支援している。 毎朝の散歩で知人と会うと普通に会話を楽しんでいる。民生委員の方やボランティアの方の訪問も歓迎している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人とご家族に相談して決めている。ご家族が受診に付き添う方には日常の情報を提供している。特変事項があれば相談に伺い適切な助言を受けている。	近所で開業している協力医に心身の状態を2週間に1回報告し、また受診の際にも今後のケアについて相談し、アドバイスを得ています。協力医以外の専門医等の受診については家族に依頼をしていますが、職員が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週一回訪問して入居者の健康状態を観察、把握している。現場の介護職から普段の容態の伝達を受け、医療面からの支援方法のアドバイスをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはご家族との連絡を密にとりながら、病院からの要請のある情報提供を正確に行い治療が速やかに行われる様に努めている。また病院の看護師を講師に招き、緊急時の対応の仕方を講義していただき、迅速な対応を学んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病気が重度化していく場合には、本人や御家族の考えを伺い、病院の医師により適切な治療方針を伺いホームで共有しながら、事業所で出来ることを支援している。	契約時に事業所で取り組めること、できないことを説明しています。これまでも、重篤化した場合は医療機関や家族と協議しています。看取りの書面化は未だありませんが、緊急時の対応マニュアルや医療連携レベルの書面は整っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行われる防災訓練において緊急対応訓練を職員全員参加で行っている。また病院看護師を招いて緊急対応の講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いによる年二回の防災訓練を実施している。入居者様も参加して、夜間火災や地震による津波発生時を想定しての避難訓練を行っている。また職員は地域の防災訓練にも参加している。	利用者も参加する津波想定内部訓練のほか、自治会の防災訓練にも参加しています。地域からの事業所訓練の参加は叶っていませんが、近所からは「避難場所に…」との声をもらえています。リスクマネジメントの観点から、グループ内の事業所間で備蓄を分散しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、生まれ育った地域の事や趣味など自分から楽しくお話して下さる内容に傾聴し、本人の気持ちを尊重した会話が出るように心掛けている。	法人本部から送られてくる「接遇」や「倫理遵守」の資料を朝礼で読み合わせるとともに、読んだら押印することになっていて、周知徹底が図られています。利用者ごとに性格が違う事を留意して接するよう、管理者からも常に伝えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の散歩やホールソファでくつろいでいる時間など、日常の安定した生活の中で、自然に自分の希望が発せられ本人の意思が確認できるような雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分などで普段はしていることでも、億劫になったり面倒だと思ふ時があれば、本人のペースを尊重して急がせることなく穏やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔であることに配慮し、上着やズボンの色合いや組み合わせを考えたり、好みの洋服を着ることを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週二回「お楽しみ食」として利用者様の希望のメニューを聞き、待っていてくださる皆様の期待に添うような献立になるように努力している。職員と利用者が共に助け合いながら、配膳や下膳、食器拭き等をして食事を準備している。	日頃から希望を聞くようにしているとともに嗜好調査もおこない、好みの食事を提供しています。2号館は歯の足りない人が増えているため、柔らかいもの、噛みやすいものを旨として提供しています。誕生会には手作りおやつも提供していて、写真掲示でも利用者の満面の笑顔を確認しました。	嗜好調査の場合、多数決の傾向になりがちです。個々の要望を具体的に調整する方法についてご一考願います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取状態や水分摂取状態を介護記録に記入し確認している。三回の食事、10:00と15:00のお茶の時間や入浴後の水分補給など一日を通じて水分摂取量を確保している。食材は栄養士が管理しており、職員が利用者様により常食や刻み食にして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残食が残らないように口腔内の清潔に気を付けている。自力でできない利用者様には職員が口腔内を確認し歯磨きを当てるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し個々の排泄のパターンを確認、把握して、自分でトイレでの排便・排便が出来るように声掛けし支援している。	自立している利用者であっても声掛け程度はし、生活リズムが乱れないよう配慮しています。トイレで排泄してもらうことを旨としていて、昼間はパットとリハパン対応ですが、タイミングのよい誘導により失禁はありません。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の状況をチェック記録して個々の状態を把握している。食事はなるべく野菜や繊維質の多いものを心掛け、毎日の散歩で体を少しでも動かすように支援している。また便秘が続くようであればかかりつけ医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認し、体温や血圧等を考慮しながら入浴を介助している。ご本人のその日の気持ちの面があり、希望を聞きながら支援している。また体力的に大変な方もおり、無理せず間隔を空けている。	2号館は日曜日を除いて入浴を提供しています。散歩後に提供している午後入浴は利用者の楽しみのひとつであり、日を置かず入浴する利用者も多くいます。ゆず湯など季節のかわり湯もおこなっています。	今後毎日入浴したい希望がでた場合、どのように対応するのか、実現にむけた検討を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に個室があり、一人でゆっくり過ごしたい時や休みたい時はプライバシーが守れるようになっている。夜間入床する時に合わせて室内温度を空調調整したり、シーツの洗濯や布団干し等を実施して寝具の清潔に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の用法や用量を把握しており、いつでも確認できるようにファイルに保管している。また定期的な服薬と症状確認を支援している。特変あれば病院に連絡し相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書に好きな方には本の提供をし、歌の好きな方には民謡のビデオ等を用意したりして、個々の好きなことを探りながら、他の入居者様や職員が共に楽しみ話題が増えるように支援している。家事能力のある入居者様には積極的なお手伝いを歓迎している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の公園への散歩により外に出ることで気分転換がはかられている。また春と秋に入居者様の希望を聞きながら買い物や食事への外出支援をしている。また家族の支援により本人の希望の場所にも出かけている。	毎朝公園に出掛けていて、単に歩くだけでなく、会話をもった散歩を心掛けています。ドライブを兼ねた外出は、自動車の台数がないためピストンとなり難儀がありますが、それでも年2回おこなっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意思を尊重して洋服を選んだり買い物に出掛けたい事を支援している。また自分で管理できる範囲のお金を所持し、希望に添った買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族との相談のもと本人の希望があればご家族や友人に連絡が取れるように支援している。年賀状やお手紙など、本人の希望があれば書くことを助けたり代筆したりすることを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間が清潔で落ち着いた所であるように心掛けている。杖をついた歩行や車椅子でも移動し易いスペースを常に確保し、安全に配慮している。日中・夜間の室内温度を寒暖湿度計で確認し空調調整している。掲示物を工夫し季節感を感じるように努めている。	2号館、3号館では全員でクラフト制作に取り組む機会が多くあるとのことで、共用空間には籠や貼り絵の成果物が飾られ、温かみを感じられます。書籍や新聞が置かれ、在宅からの生活が続いていることが視認されました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを用意し、9人が全員揃っても座れるように設置している。日中はホールに集まることによって親近感が増し会話が生まれている。また個々に個室がある為、自分の時間が確保でき自室で本を読んだり横になったりして過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族が持ち寄ったものを自室に飾り、お誕生会のカードやメッセージを貼って家庭的な雰囲気を作るように支援している。また車椅子やシルバーカーを使用している方には、安全なスペースを確保できるように努めている。	2号館では車いすやシルバーカーを利用する利用者が居るため、家具が持ち込まれていても移動のための広い空間が確保されています。居室の掃除は職員がおこなっていますが、手伝える利用者は一緒に取り組んでいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも移動できるスペースを確保し、廊下に手すりを設置することで自力での移動を可能にしている。自室前の名前やトイレやお風呂の分かり易い場所掲示で、本人が不安になることなく確認し移動できるように支援している。		